

第 6 回委員会

日時：2020 年 1 月 25 日（土）14 時～17 時

場所：日本図書館協会

出席：渡邊委員長、安食、石澤、木村、谷口、藤井、村上（一）、村上（遥）、横山
<事務局>三浦

[配布資料]

1. 2019 年度第 5 回目録委員会記録（案）（4 ページ-A4、石澤委員）
2. 今後の委員会活動に向けてのメモ（2020. 1. 25）（5 ページ-A4、渡邊委員長）
3. NCR2018 誤り等（2020. 1. 25 現在）（1 ページ-A4、渡邊委員長）
4. NCR2018 語彙定義の公開に係る作業項目メモ ver. 1. 0（1 ページ-A4、谷口委員）
5. NCR2018 語彙定義の公開・提供検討メモ ver. 2. 0（8 ページ-A4、谷口委員）
6. NCR2018 語彙定義の公開・提供検討メモ ver. 2. 0 補足検討事項（8 ページ-A4、谷口委員）
7. NCR2018 語彙定義の公開・提供検討メモ ver. 2. 0 補足検討事項 2（2 ページ-A4、谷口委員）
8. NCR2018 語彙を用いた RDF データ例（2 ページ-A4、谷口委員）
9. NCR2018 語彙定義作業：対応する RDA 語彙候補の抽出メモ ver. 1. 0（3 ページ-A4、谷口委員）
10. NCR2018 解説書の目次案（改）について（2 ページ-A4、鴫田委員）
11. 書誌データサンプル 2020. 1. 25（5 ページ-A4、村上遥委員）
12. 書誌タイプ一覧（2 ページ-A3、村上遥委員）
13. CAT 書誌（1 ページ-A4、村上遥委員）
14. データ作成事例作業用メモ（1 ページ-A4、村上遥委員）

[報告事項ほか]

1. 議事録の確認

2019 年度第 5 回の記録（資料 1）について確認を行い、確定した。

2. 前回委員会以降の関連する状況

NDL による NCR2018 適用細則案の追加公開および JAPAN/MARC MARC21 フォーマット変更箇所一覧の公開（1 月 21 日）について報告がなされた。

[検討事項]

1. 2020 年度全国図書館大会における分科会開催について

2020 年度の全国図書館大会（和歌山）においては、目録委員会による分科会の開催は行わないこととした。

2. NCR2018 の誤りの扱いについて

資料 3 に基づき、第 3 刷刊行後に発見された誤りについて、おおむね誤植の範囲に収まるものであることを確認した。今後発生する訂正の公開方法とスケジュールについては適宜検討することとした。

3. NCR2018 の解説書出版（「JLA 図書館実践シリーズ」）について

資料 10 に基づき、解説書の目次構成およびページ分量の割り振りについて検討した。出された意見を踏まえて、再度、構成案をまとめ直し、次回委員会で検討することとした。

4. NCR2018 語彙定義の公開・提供について

資料 5～7 に基づき、未決定の項目および未検討の項目について検討した。

- 新たに付与する URI の構成について、外部有識者からのコメントを踏まえ検討した結果、将来的な展開・活用の可能性を保持することを優先し、ハッシュ URI（フラグメント識別子）は採用しない方針とした。今後、分類委員会による NDC の RDF データ公開におけるハッシュ URI の採用経緯と理由等を確認し、特に大きな制約がなければ、それとは異なる方針を採用することとした。なお、語彙定義用に新たに定義するプロパティについては、現行案の通り、ハッシュ URI の構成とする。
- 併せて、URI の構成はできるだけ単純化して、名前空間 URI があまりに細分されない形を採用することとした。
- 実体間の関連を記録するエレメントおよび関連指示子の扱いにおいて、これらを RDF プロパティとして定義するときには、識別子以外による値の記述を可能にするため、その値域の指定を削除することとした。これにより、Excel 等により公開している定義情報とそれらを RDF クラス/プロパティとして定義した情報とに相違が生じることになるが、それぞれの公開・提供目的を区別して扱うこととした。

次に、資料 9 に基づき、NCR2018 語彙に対応する RDA 語彙の特定および URI 記録作業について検討した。

- 公開済み NCR2018 語彙定義ファイル（Excel/csv ファイル）の微修正、RDA 語彙との機械的照合処理結果、今後の人手による RDA 語彙の特定および URI 記録作業の手順について、それぞれ確認した。
- 作業手順書と作業用データファイルを再度改訂した上で、次回委員会において作業分担について検討することとした。

5. データ作成事例について

資料 11 から 14 に基づき、今後の作業の進め方について検討を行った。

- 資料 12 の区分を踏まえて採用すべき「書誌（資料）タイプ」には、「1 著作—1 表現形—多表現形（電子資料など）」、「1 著作—多表現形（翻訳の事例など）」、「複数著作間の関連事例（翻案の事例など）」があることを確認した。
- 記録するエレメントには、コア・エレメントとそれ以外のものを採用するが、それぞれの資料タイプにおいて通常想定される以上に詳細なエレメントは無理に採用することはしない点を確認した。
- アクセス・ポイントは、該当する実体の属性群に並べて配置する（アクセス・ポイントを実体とは別にまとめて配置することはしない）、また実体間の関連についても同様に、該当する実体の属性群に並べて配置することが分かりやすい点を確認した。
- 次回委員会において、今後の作業の進め方について再度確認し、併せて作業分担の方策について検討することとした。

6. 「目録の作成と提供に関する調査」について

資料 2 に基づき、現在の検討状況について情報共有が行われた。

次回以降の委員会の予定

2 月 29 日 (土)

4 月 4 日 (土)